

がん患者さん看とりのまとめ

(2023年6月～2024年5月)

平和会クリニック診療部 田中千恵

この1年間に平和会クリニックが関わった中で旅立たれたがん患者さん(39名)の振り返りをしました。

コロナによるパンデミックが落ち着く中、やはり病院に入院していると面会制限があることから、自宅で家族と一緒に過ごすために治療中止の選択をされ症状緩和を行いながら在宅療養する患者さんが非常に多かった印象です。

実際、在宅看取り率は74%と、去年の57%より高くなりました。

最近はまだ、治療継続を希望される方の訪問診療依頼が増えています。

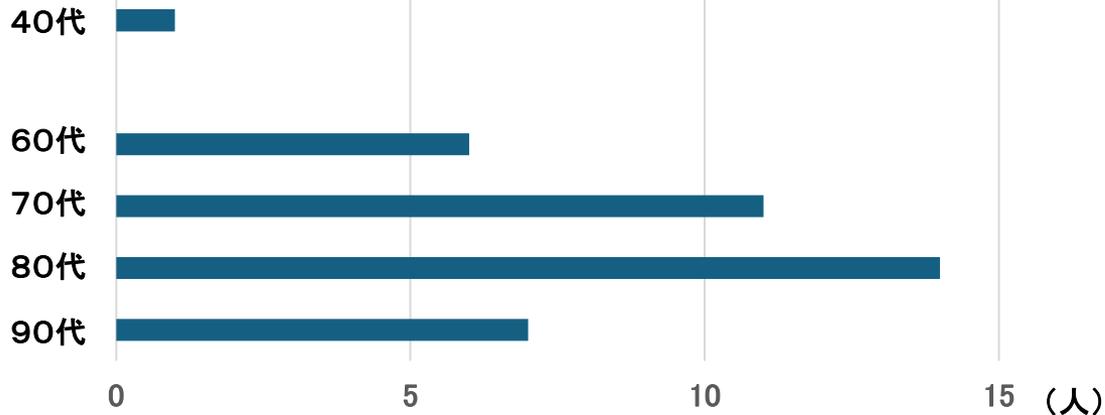
今後、がん患者さんの在宅療養はますます多様化すると考えています。

今年も、在宅医療、緩和医療について研鑽をつみ、事業所内外でICTも利用しながら細やかに連携するだけでなく、カンファレンス、セミナーを積極的に行って、治療・ケアの質を高めていきたいと思えます。

平和会クリニックが主治医の利用者様に関しては、緩和ケアチームも活動しております。何かあればどうぞお声がけください。

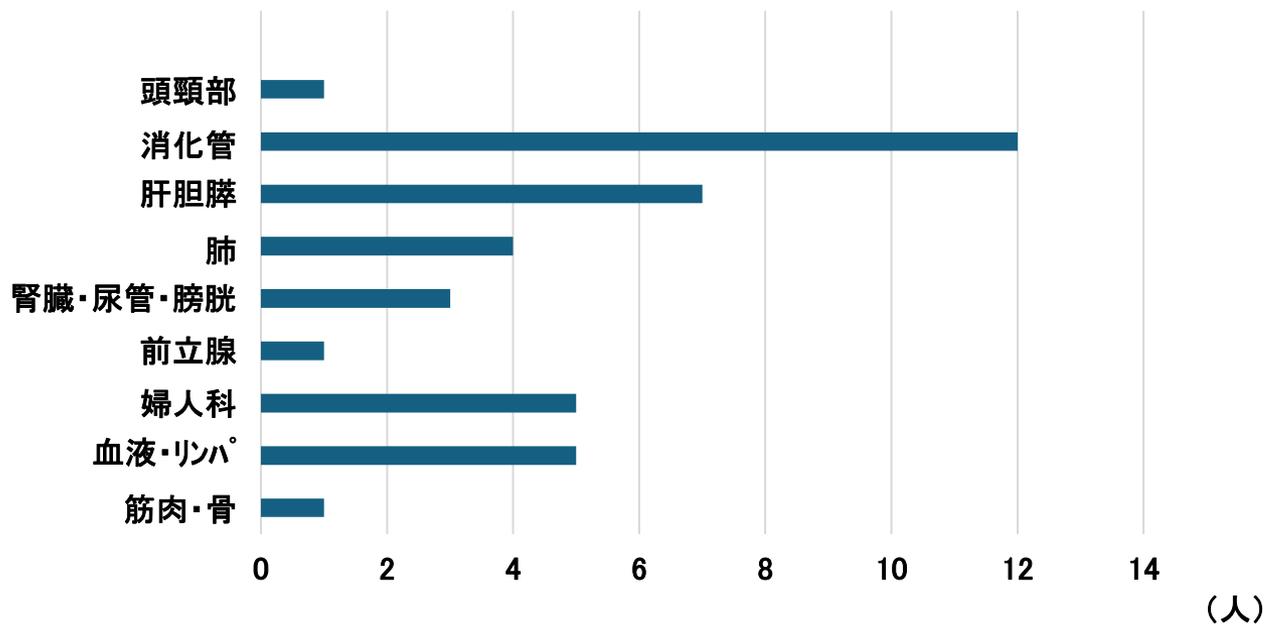
年齢

41-91才

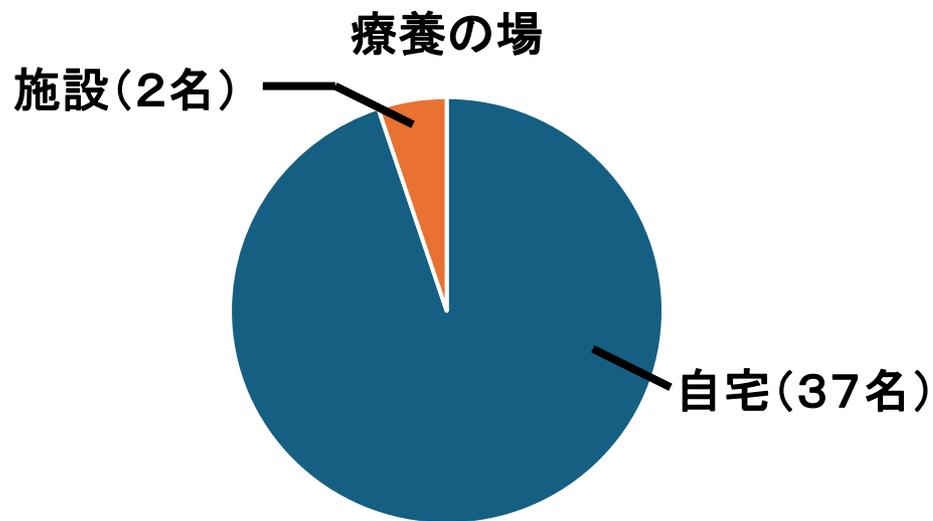


様々な年齢層の患者さんのご依頼をいただいています

原発巣

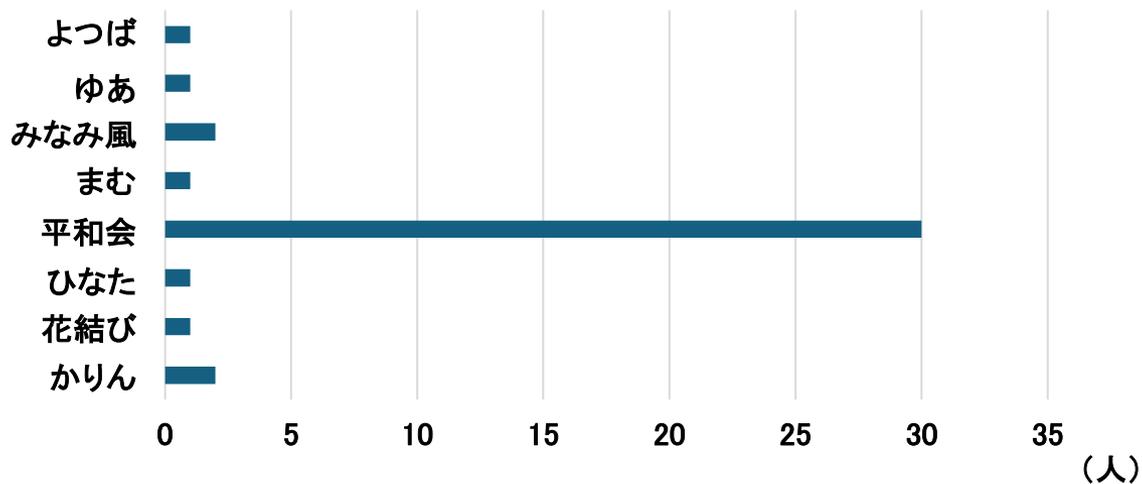


いずれの原発巣であっても対応しています

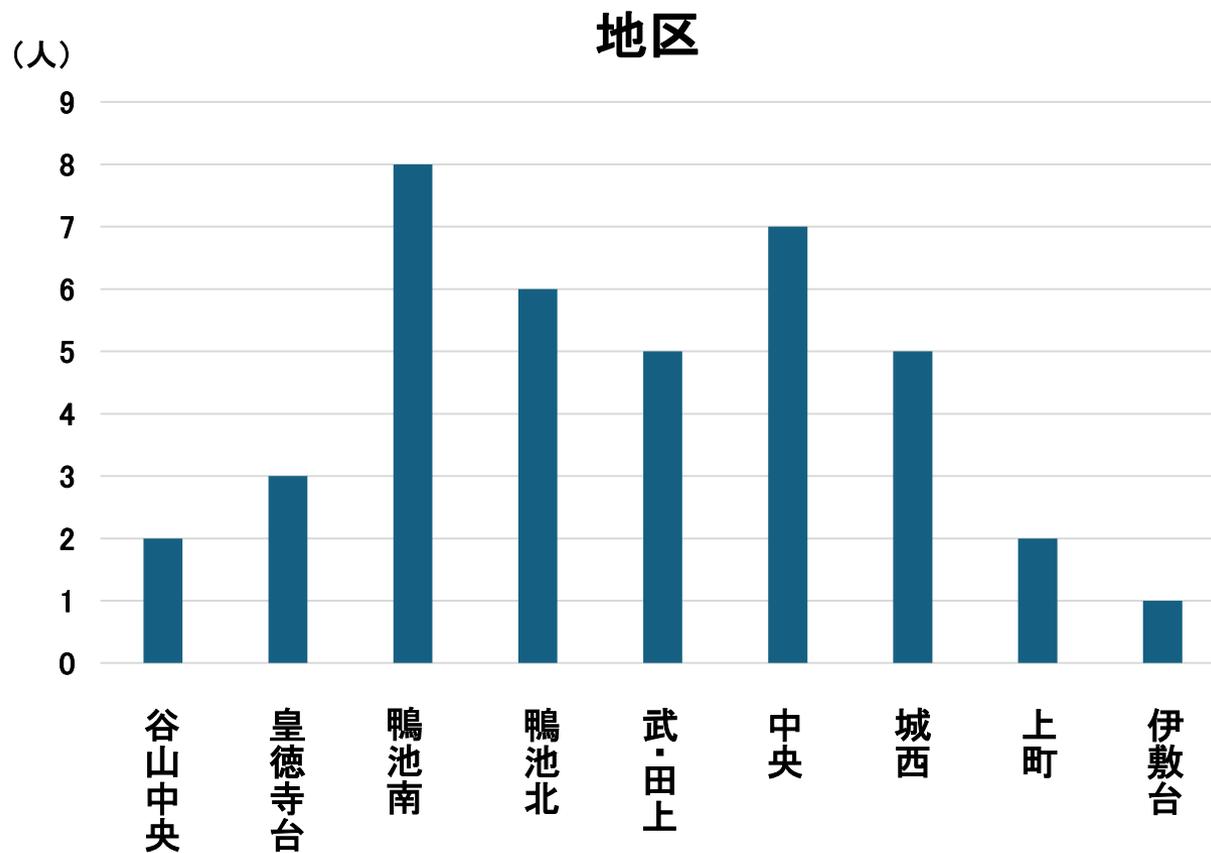


ご自宅で療養されている方、
介入可能な施設で療養されている方の
診察に伺います。

訪問看護ステーション

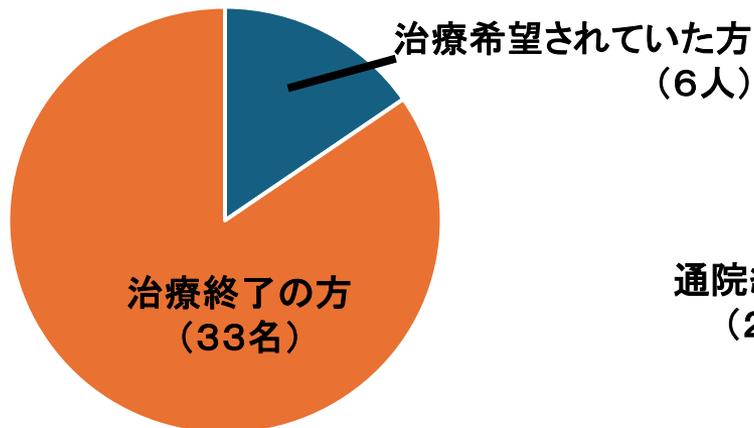


鹿児島市内の様々な
訪問看護ステーションと
連携して診療を行っています。

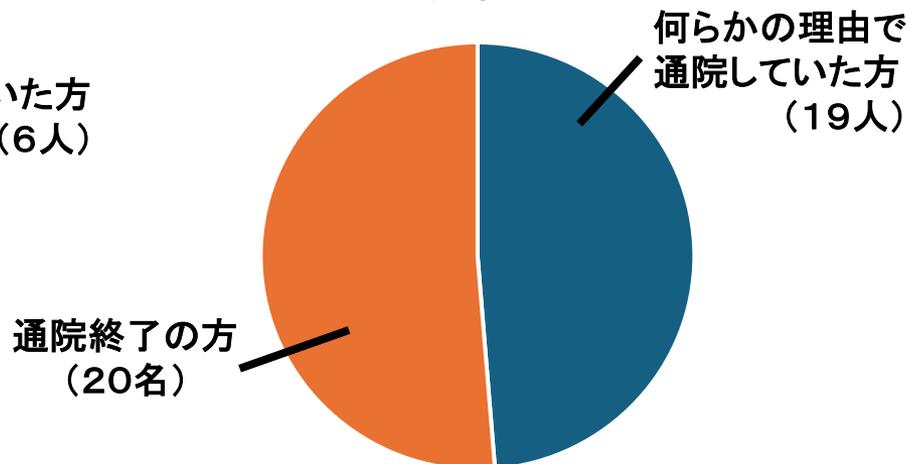


旧喜入町、旧桜島町を除く鹿児島市内で、介入可能か検討したうえで
診療開始します。

がんに対する標準的治療希望

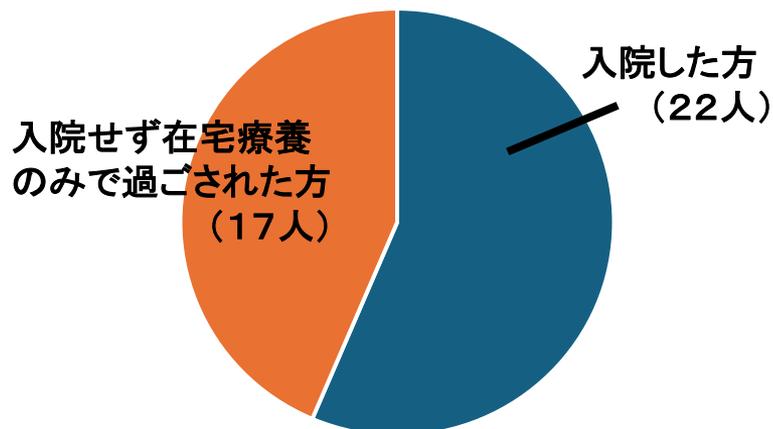


通院



標準的がん治療の適応があり、治療継続される場合、
ご本人・ご家族・治療病院主治医のニーズを確認の上、
治療病院と連携して診療を行う場合もあります。
治療中止していても外来受診希望有れば、
診療情報を提供しつつ連携しています。

何らかの理由で入院した方

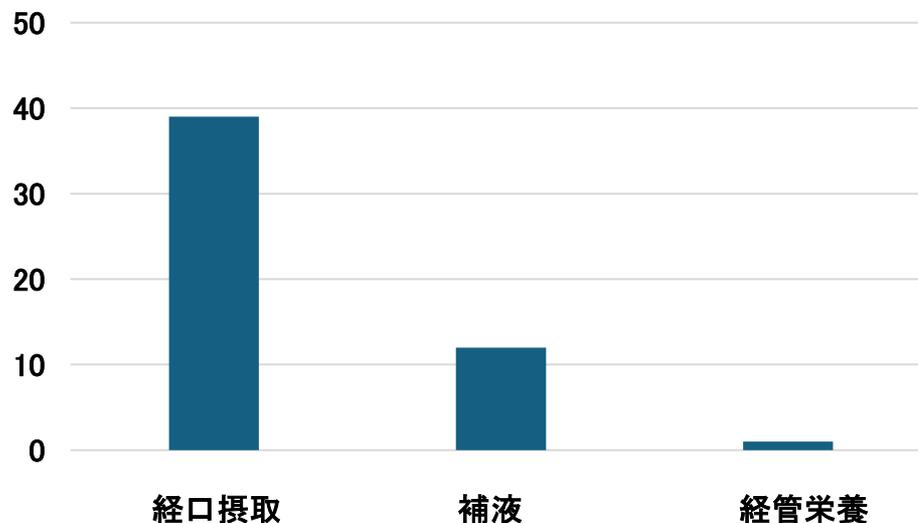


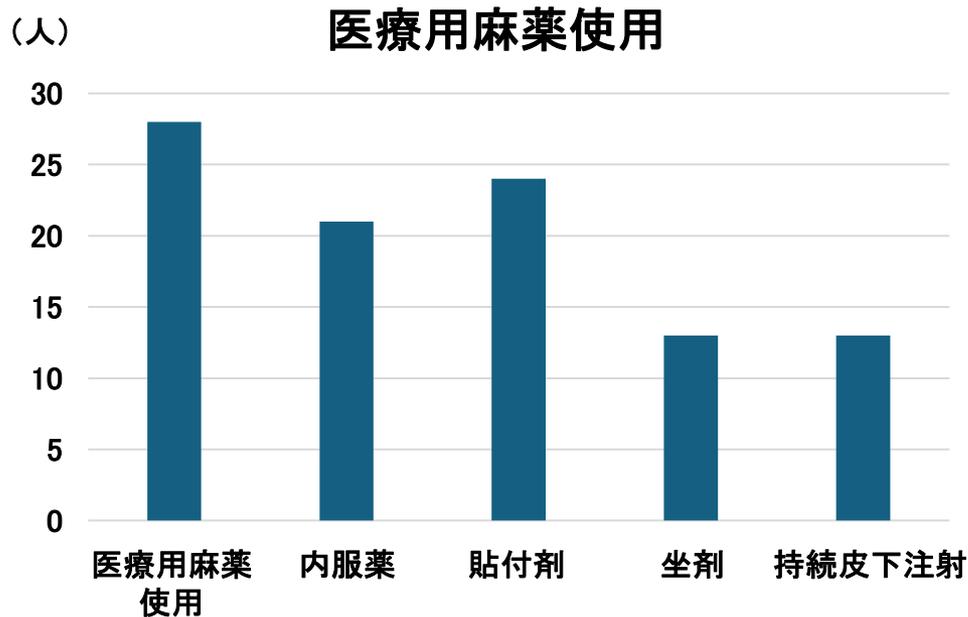
病状が落ち着くまで入院したい、ご家族のご都合で入院が必要、など、入院希望あれば後方支援病院と連携してスムーズに入院できるよう対応します。退院してこられた場合は、訪問診療再開します。

なるべく何らかの形で経口摂取できるよう工夫します。
誤嚥のリスクが高い方は、食事の形態の工夫、口腔ケアブラシに水分を含ませ口の中をぬぐうといった方法をとっています。

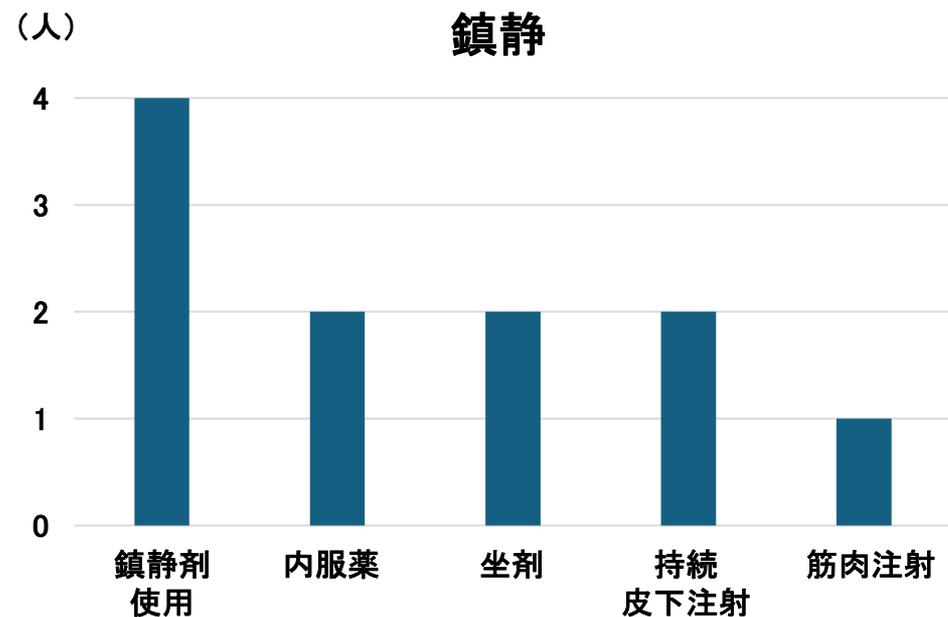
(人)

栄養ルート



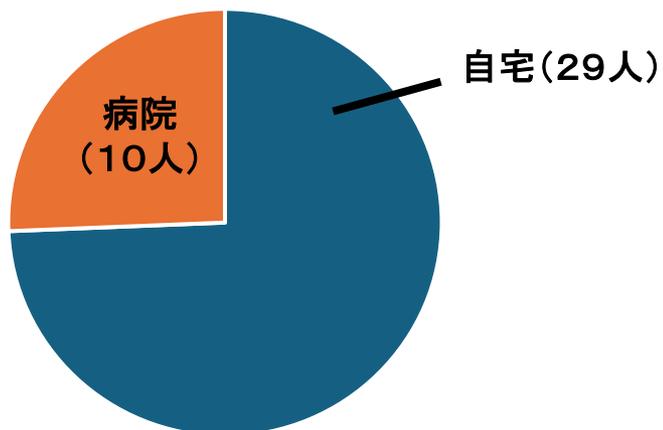


患者さんの状態を拝見し、
患者さん・ご家族と相談しながら
必要に応じて、
医療用麻薬を使用します。



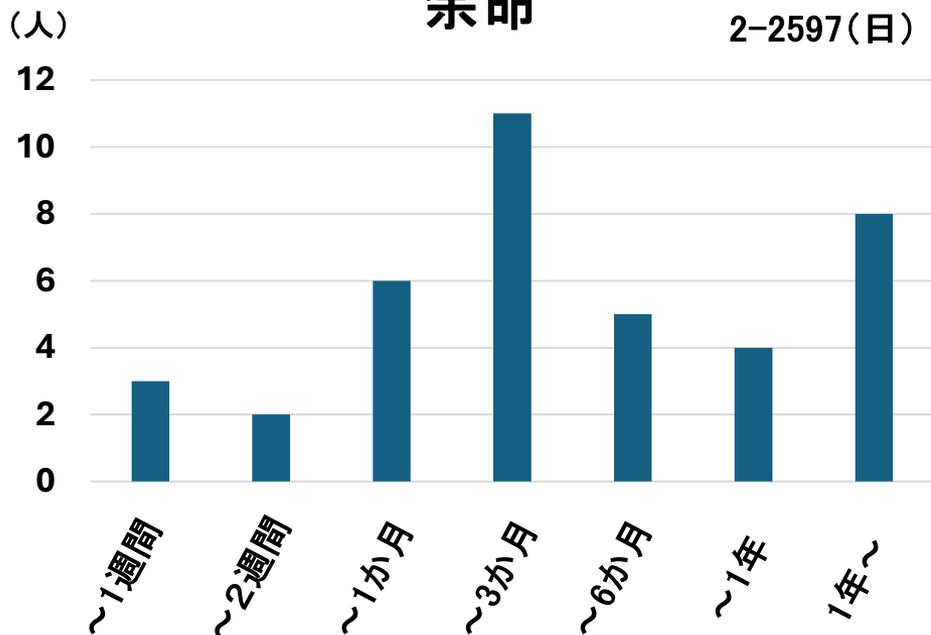
身の置き所ないきつさがあり
眠って過ごされる方が楽な場合も
ご本人・ご家族と相談しながら
お薬を使うことがあります。

看取りの場



ご自宅で過ごしたいご希望の方は、治療・ケア・各種サービスの介入・工夫によって在宅療養をサポートしています。場合によっては入院の方がよりよく過ごせると判断される場合もあり、あらかじめ緩和ケア病棟のある病院の緩和ケア面接を受けていただき、必要時は(一時的な入院の場合も)スムーズに入院できるよう連携を図っています

余命



病状進行のスピードは、患者さんによって様々です。患者さんの状態、患者さんのお気持ちやご家族のお考えを伺いながら対応します。(1年以上の余命のあった方は、非がん疾患で診療を始め途中でがんが見つかった方々が多いです)